LIFE　SHIFT　リンダ・グラットン/アンドリュー・スコット著　池村千秋訳

東洋経済新報社　2016

* **幸せな国　日本**
* 平均寿命　男80.98歳　女87.14歳（2016）世界第2位（1位は香港）※資料1～3

　2050年までに、日本の100歳以上人口は100万人を突破（国連の推計）

2007年に日本で生まれた子どもの半分は、107年以上生きることが予想される。

* 長寿化は、社会に一大革命をもたらし、あらゆることに影響を及ぼす

ex働き方、教育、結婚、子どもを持つタイミング、余暇時間の過ごし方、女性の地位…。

* **過去のロールモデルは役に立たない**

終身雇用が成り立たない

若者たちの生き方が変わりつつある。

* **「老い」の概念が変わる**
* 長寿化に伴い、人生設計をし直さなくてはならない

人生の新たなステージがいくつも出現…ﾀﾞﾌﾞﾙｲﾝｶﾑ、新たな資格取得、転職、起業

パートナーの関係も様変わりする…２オペ労働、家事、育児

新しい生き方の試み…多様化

長寿化時代に向け、社会が試練に直面…年金（日本では高齢者への支援が比較的手厚いが）、定年、格差（経済、健康）

* **人生に新しいステージが現れる（別紙表参照）**
* 「教育－仕事－引退」という古い3ステージの生き方が不適応な時代に

「仕事」のステージが長くなる…引退が70〜80歳になり、10～20年も長く働く

3ステージの生き方に代り、もっと多くのステージを経験するようになる。

幅広い針路を検討する「**エクスプローラー（探検者）**」

自由と柔軟性を重んじて小さなビジネスを起こす「**インディペンデント・プロデューサー（独立生産者）**」

さまざまな仕事や活動に同時並行で携わる「**ポートフォリオ・ワーカー（複職・副職）**」

選択肢が増えれば、人々はもっと自分らしい人生の道筋を描くようになる。

* 同世代の人たちが同時に同じキャリアの選択をおこなう常識…同世代が同時期に大学に進み、同時期に就職し、同時期に子どもをつくり、同時期に仕事を退く、―隊列を乱さずに一斉行進する画一的な生き方…は過去のものに
* 社会が人生の新しいステージを受け入れるには、乗り越えるべき障害がある

国の制度、人々の固定観念、過去に機能した思考様式

* 日本では若者の安定志向が強く、公務員や大企業への就職を目指すことが多い。

一方、起業家志望者への支援や評価は乏しい。自分が新しいことを始められるという自信、そして、政府の政策による後押しが必要だ。しかし、日本は歴史的にそのような環境が整っていない。

* 厳しい雇用状況下、日本の若者は学校を出たあとすぐに就職しようとする傾向が強い。それは、創造性を発揮する機会を減らし、エクスプローラーとして探索するゆとりを失う。幅広いキャリアの選択肢を検討する期間は、長寿化時代には重要になる。
* **パートナーの両方が職を持つメリット**
* 働き方が変われば、家庭生活も大きく変わる。
* パートナーの両方が職をもつことの**メリット**は自明

二人同時に働く形態もあり、互いのキャリアを支えるために交互に職に就く形態もある。労働市場が激しく変動する時代に、**経済的な責任を分かち合えば**、長い人生に必要な資金を確保するうえで**リスクを大きく減らせる**。

* しかし、日本では職をもつ女性の割合が少ない…女性の70％は第一子出産と同時に辞めている。男性が一家の稼ぎ手として大きな重圧にさらされ、女性が家計に貢献する余地も限定される。夫が外で働いて金を稼ぎ、妻が専業主婦を務めるという昔ながらの家族形態は、長寿化時代には明らかに適さない
* **最新の世界経済フォーラム「ジェンダー・ギャップ報告書」によれば、日本の男女平等度は、調査対象145カ国のうち101位**（2017現在114位と後退）**※資料４**。

100年ライフの恩恵を最大限にするには、この状況を解消することが避けられない。

* **就職、引退の常識が変わる**
* 長寿を恩恵にするためには、**生涯を通じて「変身」を続ける**覚悟が必要
* 30歳未満の人に…

じっくり時間を取り、さまざまなキャリアの選択肢を検討し、世界について学び、労働市場の未来をよく理解してほしい。自分のビジネスを立ち上げようとしている人と知り合えば、キャリアの選択肢について視野が広がる。

未来の**夫や妻とのパートナーシップのあり方**を考える…**古い家族形態にとらわれず、平等性と対等な貢献を重んじた関係を築く必要がある。男性は、どうやって未来の妻と平等な関係をはぐくむか、女性は、家庭で経済的に貢献する方法を考えればいい。**

この時期には、**人的ネットワーク**も広げたい。若者が多様な経験をする足棚になっているのは、自分と似たような人としか付き合いがないことだ。人生が長くなれば、**人生の途中で変身を遂げることが不可欠**になる。それを実践するには、自分について知ること、自分とは大きく異なるロールモデルと接することが重要だ。いま30歳未満のあなたは、人的ネットワークを広げて、自分とまるで違う人たちとつき合おう。

* 40〜50代の人へ…

60代で引退のつもりが、あなたの職業人生は、少なくともあと25年続く可能性が高い。しかも、これからは、**スキルの価値が瞬く間に変わる時代**。**新しいスキルの習得**に力を注ぐ必要が出てくる。

働く期間が長くなり、**途中での変身の**必要性が高まれば、人的ネットワークを広げて自分とはまったく**違うタイプのロールモデルを見つけ**、**新しい生き方の選択肢**を知ることが大切になる。

家族やパートナーと話し合い、**家族の関係や役割を見直す**。片方が新しいスキルを身につけるために時間が必要になれば、**二人の役割のバランスも変わる**。

* 60歳以上の人…

長寿の恩恵を手にし、新しい機会が開ける半面、若い頃に想像していたより高齢になるまで働き、収入を得続ける必要が出てくる。若者たちのメンターやコーチ、サポーターを務めることがあなたの役割になるかもしれない。さまざまな活動を並行しておこなう**ポートフォリオ・ワーカー**という選択肢も広がりつつある。家族や同僚や地域社会に貢献するために時間を割くのもいいだろう。若い世代のロールモデルになり、生き方の指針を示せる可能性もある。

* **年金や人口減の問題が和らぐ**

誰もが変化して100年ライフに適応すると同時に、伝統的な価値観も大切にするバランスが大事。日本は長寿国であり、出生率が低い国。高齢人口が増える一方で、総人口が減り、約1億3000万人に達した人口は、国連の予測によれば、2060年には約8700万人にまで落ち込むという（65歳以上が人口に占める割合は40％に達する）。人々が70代後半や80代になっても活力と生産性を失わず、長く働き続けられれば、年金問題や人口減少の弊害はだいぶ和らぐ。

**序章　100年ライフ**

* オンデイーヌの呪い…長い期間呪われたように働き続ける⇔柔軟に自分らしい生き方を選択（転身、仕事の中断、いくつものキャリアの経験、マルチステージの実践）
* 100年ライフでなにが変わるか？…働く期間の延長、お金の問題、労働市場の変更

新しい職種とスキル、ロボットとAIの登場。新しい知識とスキルへの再投資、人生のマルチステージ化、柔軟性を備え変化を受け入れて変身を試みる、レクリエーションから**リ・クリエーション**へ、一斉行進の終了、ステージのエイジレス、選択肢（オプション）を持つ価値、家庭と仕事の関係が変わる（ジェンダー不平等の縮小、子育てのあり方の変化）、2オペ労働、２オペ育児、夫婦関係の変化、試み（実験）の活発化

**第1章　長い生涯…長寿という贈り物**

平均寿命は今後も延びる、健康な期間が延びる

**第2章　過去の資金計画…教育・仕事・引退モデルの崩壊（※別表参照）**

**第3章　雇用の未来…機械化・AI後の働き方**

* 新しい産業とエコシステム…産業の新陳代謝、テクノロジーの進化、人口構成の影響

イノベーション、ギグ・エコノミー（スキルを売りにして顧客の依頼を受けて働く）、シェアリングエコノミー、スマート・シティ（賢い都市、高スキル人材の集積、同類婚）、オフィスの概念の変更

* 雇用なき未来がやって来る？…AI,ITの進化により、中程度のスキルの雇用の空洞化
* 仕事の未来はどうなるのか？…人間にしかできないこと、経済的価値を生むものは製造ではなくイノベーション、テクノロジーが雇用創出する、勝者総取り（ビルゲイツ）
* 将来予測は不確実。柔軟性をもって方向転換と再投資の覚悟を

第４章　見えない「資産」…お金に換算できないもの

* 人生の「資産」を管理する

1　生産性資産…スキルと知識、仲間、評判

2　活力資産…健康－脳は鍛えられる（運動と食生活）、バランスの取れた生活（生活習慣、ワークライフ・バランス、パートナーとの家庭内役割分担）、自己再生のコミュニティ（友人等人的ネットワーク）、思考の柔軟性と敏捷性、経験知、結婚と夫婦の関係の在り方の変化、伝統的な夫婦関係の消滅、様々なライフスタイルが選べる時代

3変身資産

自分についての知識、多様性に富んだネットワーク、新しい経験に対して開かれた姿勢

第5章　新しいシナリオ…可能性を広げる、ライフスタイルの多様性

第6章　新しいステージ…選択肢の多様化…**エクスプローラー、インデイペンデント・プロデューサー、ポートフォリオ・ワーカー（※別PP参照）**

第7章　新しいお金の考え方…必要な資金をどう得るか

第8章　新しい時間の使い方…自分の**リ・クリエーション**へ